

まちパト!スタンプクエスト 始動!

みんなでレベルアップ!
まちを歩いてスタンプを集めよう!
レベルアップでもらえるパトロールグッズもパワーアップ!

ルーキー C級 B級 A級 S級 S級

地域の皆様へ：スタンプ設置や見守りにご協力ください。

地域の安心・安全をみんなで守る新しい取り組みとして、「まちパト!スタンプクエスト」を来年度よりスタートします。

このプロジェクトは、子どもたちが地域のお店などを回りながらスタンプを集めることで、楽しみながら見守り活動に参加できる取り組みです。特殊詐欺などの犯罪者は必ず下見に来るといわれているため、参加者が同じ防犯グッズを身につけてまちを歩くことで、警告の意味を込めて犯罪抑止とし、地域全体の防犯意識を高めます。また、スタンプラリーを地元のお店や会社さんをお願いすることで、地域がつながり合って災害などの「いざ」というときに強いまちづくりを目指します。参加する子どもたちはスタンプカードを持って地域を巡り、スタンプを集めていきます。集めた数に応じてレベルが上がり、「ルーキー」から「C級」「B級」「A級」、そして最高ランクの「S級」へとステップアップしていきます。

レベルに応じて見守りの目印となるグッズがステップアップし、身につけて歩くことで地域に「見守りの目」が広がります。一定のレベルに達した参加者はこの広報誌で紹介し、がんばりを地域全体で称えます。

本活動を通じて、子どもたちが楽しみながら地域と関わり、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識の醸成を目指します。

地域の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。「まちパト!スタンプクエスト」にぜひご期待ください。

担当役員：千坂順二

PTA集団登校の見守りに協力します

PTAからの依頼を受けて、4/9(木)、4/10(金)に八雲台小子ども達の集団登校に、運営委員や、地区協からお声がけした地域の方が見守り役として参加します。

地区協とまごじばは協力関係です

今後のまごじばプレーパーク情報

時間：10:30~15:30

3月22日(日)：カニ山キャンプ場

4月11日(土)：カニ山キャンプ場

時間：9:30~15:00

4月18日(土)：八雲台ふれあいの家

1家族・参加費
200円

さくらまつり

@八雲台小学校

3月29日(日)

12:00~16:00

地区協



ポップコーン
200円

ドリンク
100円

まごじば

容器持参は
50円!



豚汁
100円

この日もプレーパークします!
「たけの子プロジェクト」で採れた竹を使って作ったおもちゃで遊べます!

協力団体のまごじばも同じブースで出店します

八雲台小学校開放運営委員会主催の「さくらまつり」で出店します!



発行：八雲台小学校地区協議会 会長：添田光威
yagumochikukyo@docomo.ne.jp

2024年3月号から2年ぶり・・・

今回は約2年ぶりに、地区協・開放運営委員会・健全育成委員会の代表が顔をそろえ、地域活動の課題やこれからの展望について語り合いました。

真剣な話題の中にも笑顔がこぼれる、和やかな座談会となりました。

地域代表3団体トップ対談を実施しました 八雲台「未来」作戦会議



第一弾でお話くださった代表の皆さま



皆さんの想いを繋いでいきます!!

登場人物 (地域を支える3つのチーム)

開放運営委員会 (開放)
井上 淳
北部合気道・今年度開放委員長

地区協議会 (地区協)
添田 光威
17年地区協会長

健全育成委員会 (健全)
松井 真奈美
今年度健全委員長

横の系

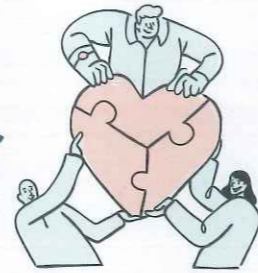
地区協の大切な役割の一つが、地域で活動する団体同士をつなぐことになることです

お茶を飲みながら「楽しくお話ししました!」

地域代表3団体 座談会

～子どもたちの未来は、地域のつながりから～

人手不足という共通の課題から、大人も本気で楽しむ新しいイベントの構想まで、予定時間を超えて盛り上がった座談会の様子をお届けします。



1 まずは顔を知ることから

「人手不足」という現実をどう乗り越えるか

千坂（広報）：この度は貴重な機会をありがとうございます。さっそくですが、どの団体も運営の担い手不足に直面しているという声が聞こえてきます。現役保護者として感じるのは、PTAの加入率低下や「強制ではなく任意」という意識の変化が、地域活動にも影響を与えているのではという点ですが、いかがでしょう？

添田会長（地区協）：「たしかに以前はPTAが地域活動への窓口になることが多かった。今は若い世代と繋がる機会がなかなか無く、一人ひとりの負担が大きくなっています。20年近く活動してきましたが、今の時代、誘うこと自体難しくなっていますね」

松井委員長（健全）：「健全育成も、昔のように部門ごとに人を分ける余裕がなく、全員で全部をこなすのが現状です。でも、ソフトボールの監督を若い世代に引き継いだら、コーチや仲間が自然と集まってくれた。やはり若い力をいかに巻き込むかが鍵ですね」

2 団体同士の連携について

情報を共有し、「横の系」で繋がる運営へ

千坂：情報の共有不足が「運営の難しさ」に繋がっているという声もありますね。

添田会長：グループLINE作っちゃう？

全員：賛成！

井上委員長（開放）：「委員長になって初めて、教育委員会との連絡会や予算の仕組みを知りました。こうしたノウハウを団体間で共有できれば、もっと楽に運営できるはず。」

1年で交代してしまうのはもったいないので、前年度の知見を繋ぐ仕組みを大切にしたいです」

千坂：「団体同士が『人の取り合い』をするのではなく、協力して人手を出し合える『チーム・ヤグモ台』になれば、新しい人も入りやすくなるかもしれませんね」

3団体主催の年間行事を紹介しませ



八雲台小学校地区協議会

- 4月防災教育の日
- 防災フェス●そば道場
- 調布ヶ丘わくわく広場



八雲台小学校開放運営委員会

- 納涼祭り
- 地域住民大運動会
- さくら祭り



八雲台小学校健全育成推進地区委員会

- 児童館祭り
- 紙ヒコーキ大会
- 健全ソフトボール

3 「それぞれ頑張るより、みんなでやった方がいい」

新提案！

「ヤグモ・フェスティバル」と「フラバル」

座談会で最も盛り上がったのが、既存の行事を見直し、大人も子供もワクワクする企画を作るというアイデアでした。

添田会長：「最近暑さがとにかく厳しい。熱中症対策や人手不足に課題があるわけだから、個別の小規模イベントを減らして、全団体が力を集結させる1個のどっかいイベントやったらどう？たとえば「ヤグモ・フェスティバル」とか。」

全員：笑い

井上委員長：「ニュースポーツに“フラバル”っていうのがあるんですよ。楕円形のボールを使うんですが、予想外の動きが面白いスポーツです。老若男女できますし、『大人が本気で遊ぶ姿を見せる！』ってことで、地域運動会をフラバル大会にするなんていうのも、全体の負担を減らしながら地域全体で楽しめるかもしれませんね。」

4 まずは「顔なじみ」になることから

「人間関係」について、具体的な第一歩

最後に、すべての活動の土台となる「人間関係」について、具体的な第一歩が決まりました。

千坂：「地域が強くなれば、子どもたちは絶対に幸せになれるはず。そのためにも、まずは大人同士が仲良くなる第一歩として何か形にしませんか？」

添田会長：「オレはね、やっぱ飲みにケーション大事だと思うんだよね(笑)」

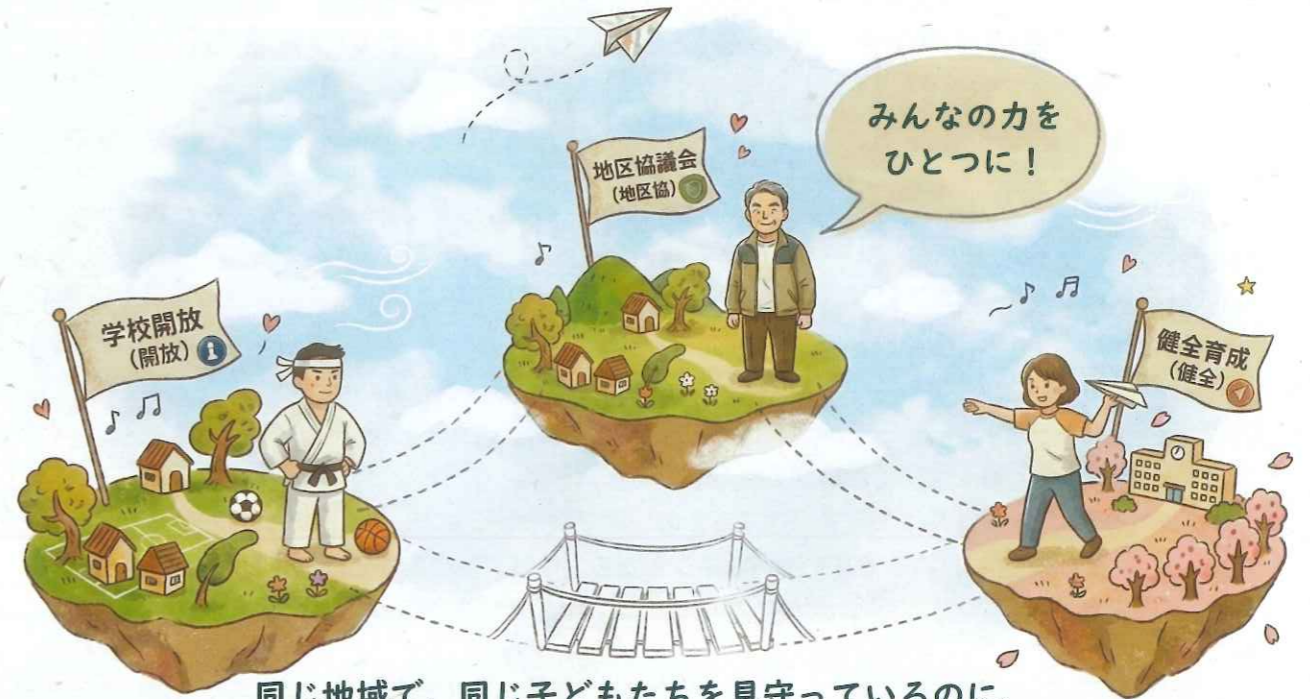
井上委員長：「“会議”って言葉が重い(笑)。“交流会”にして、それこそ飲みながら色々な人が気楽に交流できたら、新しいものが生まれると思いますね」

全員：まずは顔なじみになりましょう！

そこで・・・【決定事項！】5月・6月の各団体総会後、「3団体合同親睦会」を開催します！！堅苦しい会議ではなく、デイリーに集まり、お酒や会話を楽しみながら「顔の見える関係」を築くことが決定し、グループLINEを作成し、本日の対談は終了となりました。

代表の皆様、本日はありがとうございました。

これまで、私たちは「別々の島」に
いるようなものでした



同じ地域で、同じ子どもたちを見守っているのに、
実は「お互いが何をしているか」をよく知りませんでした。
3年ぶりの座談会で、初めて「横の系」を紡ぎ直すことにしました。

ぶっちゃけトーク。
『今、何が一番困ってる？』

「声かけても、なかなか入ってくれないねえ」

「イベントがばらばらで全部出たいけど出られない」



✓ **人手不足：**
ボランティアの高齢化。
若い人が入ってこない。

✓ **負担の集中：**
「仕事の後に会議？
間に合わない！」

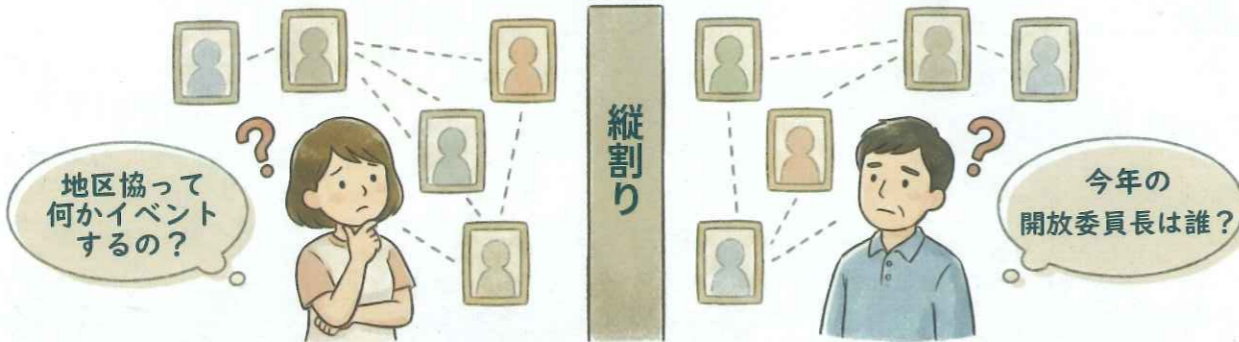
✓ **勧誘のハードル：**
大変そうに見えるから、
声をかけても逃がられちゃう。

座談会を
分かりやすく
イラストに
してみました

「あれ？実はお互いのこと、よく知らない？」

同じ学区なのに、顔と名前が一致しない。

「そのイベント、そっちの主催だったの？」という驚きも。



- 縦割りの弊害：個別に活動するから、情報が共有されない。
- 孤立：開放委員長は1年で交代するため、横のつながりができないまま終わってしまう。
- もったいない：「知ってる人がいなくなったら、地域運動会もできないかも…」

ひらめき！「混ぜてみたら、どうなるう？」

人の取り合いをするのではなく、みんなで一つの大きなイベントをやる。
負担を減らして、楽しさを最大化する作戦。



- ✓ 個別開催をやめて、「合同フェスティバルに」に？
- ✓ 予算も出し合えば、もっと良いものができる！
- ✓ 「地区協」「開放」「健全」の垣根を超えたチーム作り。

「地域運動会の代わりに、みんなでニュースポーツやるとか？」

アイデアの種①：義務感より「大人の部活」へ

「手伝ってください」と頼むより、「一緒に遊ぼう」と誘う方が人は集まる。
大人が本気で楽しむ姿を見せることが、最強の勧誘活動。



- 飲みにケーション：
まずはBBQで仲良くなる！？
- ハードルを下げる：
「会議」じゃなくて「交流会」。
- 雰囲気づくり：
若いお父さん・お母さんと交流。



決定！
まずはここから
始めます

「大人が楽しければ、子どもも嬉しいんです」

アイデアの種②：「広報」をアップデート



アイデアの種③：グループライン作成



地域が強くなれば、子ども達の笑顔が増える

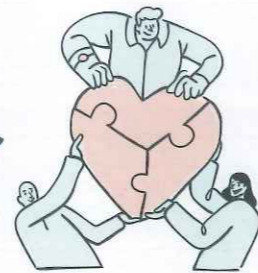
無理はしない。できることから、ちょこっとずつ。
大人が笑ってつながれば、それは子どもたちの安心と笑顔につながります。



地域代表3団体 座談会

～子どもたちの未来は、地域のつながりから～

人手不足という共通の課題から、大人も本気で楽しむ新しいイベントの構想まで、予定時間を超えて盛り上がった座談会の様子をお届けします。



1 まずは顔を知ることから

「人手不足」という現実をどう乗り越えるか

千坂（広報）：この度は貴重な機会をありがとうございます。さっそくですが、どの団体も運営の担い手不足に直面しているという声が聞こえてきます。現役保護者として感じるのは、PTAの加入率低下や「強制ではなく任意」という意識の変化が、地域活動にも影響を与えているのではという点ですが、いかがでしょう？

添田会長（地区協）：「たしかに以前はPTAが地域活動への窓口になることが多かった。今は若い世代と繋がる機会がなかなか無く、一人ひとりの負担が大きくなっています。20年近く活動してきましたが、今の時代、誘うこと自体難しくなっていますね」

松井委員長（健全）：「健全育成も、昔のように部門ごとに人を分ける余裕がなく、全員で全部をこなすのが現状です。でも、ソフトボールの監督を若い世代に引き継いだら、コーチや仲間が自然と集まってくれた。やはり若い力をいかに巻き込むかが鍵ですね」

2 団体同士の連携について

情報を共有し、「横の系」で繋がる運営へ

千坂：情報の共有不足が「運営の難しさ」に繋がっているという声もありますね。

添田会長：グループLINE作っちゃう？

全員：賛成！

井上委員長（開放）：「委員長になって初めて、教育委員会との連絡会や予算の仕組みを知りました。こうしたノウハウを団体間で共有できれば、もっと楽に運営できるはず。」

1年で交代してしまうのはもったいないので、前年度の知見を繋ぐ仕組みを大切にしたいです」

千坂：「団体同士が『人の取り合い』をするのではなく、協力して人手を出し合える『チーム・ヤグモ台』になれば、新しい人も入りやすくなるかもしれませんね」

3団体主催の年間行事を紹介しす



八雲台小学校地区協議会

- 4月防災教育の日
- 防災フェス●そば道場
- 調布ヶ丘わくわく広場



八雲台小学校開放運営委員会

- 納涼祭り
- 地域住民大運動会
- さくら祭り



八雲台小学校健全育成推進地区委員会

- 児童館祭り
- 紙ヒコーキ大会
- 健全ソフトボール

3 「それぞれ頑張るより、みんなでやった方がいい」

新提案！ 「ヤグモ・フェスティバル」と「フラバール」

座談会で最も盛り上がったのが、既存の行事を見直し、大人も子供もワクワクする企画を作るというアイデアでした。

添田会長：「最近暑さがとにかく厳しい。熱中症対策や人手不足に課題があるわけだから、個別の小規模イベントを減らして、全団体が力を集結させる1個のどっかいイベントやったらどう？たとえば「ヤグモ・フェスティバル」とか。」

全員：笑い

井上委員長：「ニュースポーツに“フラバール”っていうのがあるんですよ。楕円形のボールを使うんですが、予想外の動きが面白いスポーツです。老若男女できますし、『大人が本気で遊ぶ姿を見せる！』ってことで、地域運動会をフラバール大会にするなんていうのも、全体の負担を減らしながら地域全体で楽しめるかもしれませんね。」

4 まずは「顔なじみ」になることから

「人間関係」について、具体的な第一歩

最後に、すべての活動の土台となる「人間関係」について、具体的な第一歩が決まりました。

千坂：「地域が強くなれば、子どもたちは絶対に幸せになれるはず。そのためにも、まずは大人同士が仲良くなる第一歩として何か形にしませんか？」

添田会長：「オレはね、やっぱ飲みにケーション大事だと思うんだよね(笑)」

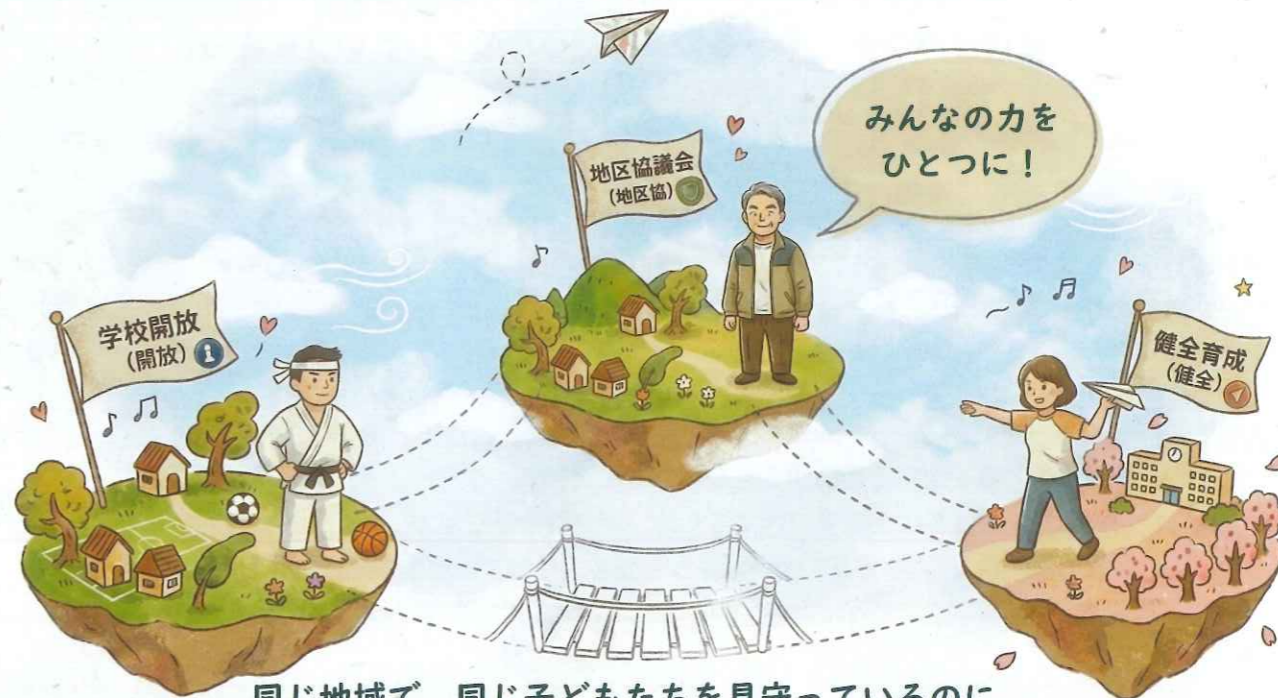
井上委員長：「“会議”って言葉が重い(笑)。“交流会”にして、それこそ飲みながら色々な人が気楽に交流できたら、新しいものが生まれると思いますね」

全員：まずは顔なじみになりましょう！

そこで・・・【決定事項！】5月・6月の各団体総会後、「3団体合同親睦会」を開催します！！堅苦しい会議ではなく、デイリーに集まり、お酒や会話を楽しみながら「顔の見える関係」を築くことが決定し、グループLINEを作成し、本日の対談は終了となりました。

代表の皆様、本日はありがとうございました。

これまで、私たちは「別々の島」に
いるようなものでした



同じ地域で、同じ子どもたちを見守っているのに、
実は「お互いが何をしているか」をよく知りませんでした。
3年ぶりの座談会で、初めて「横の系」を紡ぎ直すことにしました。

ぶっちゃけトーク。
「今、何が一番困ってる？」



- ✓ **人手不足：**
ボランティアの高齢化。
若い人が入ってこない。
- ✓ **負担の集中：**
「仕事の後に会議？
間に合わない！」
- ✓ **勧誘のハードル：**
大変そうに見えるから、
声をかけても
逃げられちゃう。

座談会を
分かりやすく
イラストに
してみました